

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2107 SNMP2307 SCMP2307 SBMP2107 PSMP2407
2. 授業担当教員	大久保 圭介			
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、調査方法に関する実習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本講義は国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会福祉調査の基礎」(旧カリキュラムでは「社会調査の基礎」)に対応するものである。本講義では、社会調査および社会福祉調査の基礎的事項を学習するが、社会福祉調査は社会福祉領域での社会調査のことであるため、本講義の内容の多くの部分は社会調査に関するものとなる。</p> <p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い、データを収集して、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとするものである。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められる。本講義を受講することにより、社会調査の重要性、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点、社会福祉領域における社会調査の活用法について把握することが可能となる。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査・社会福祉調査の意義と目的について理解し、説明できるようになる。 2.社会調査と社会福祉の歴史的関係について理解し、説明できるようになる。 3.社会調査・社会福祉調査における倫理や個人情報保護の留意点について理解し、説明できるようになる。 4.量的調査と質的調査の方法および調査の結果について適切に理解し、説明できるようになる。 5.仮説設定→質問項目作成→現地調査→データ分析→分析結果の発表という調査の流れについて見通しを持てるようになる。 6.ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解し、説明できるようになる。 7.社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験に必要な基礎知識について説明できるようになる(受験予定学生の場合)。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに課題を出し、指定する期日までに提出する。履修者は、その進捗状況をもとに学習内容の確認および復習を適宜行うこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 橋本有理子編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉 5 社会福祉調査の基礎』ミネルヴァ書房、2021。 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』中央法規出版、2021。</p>			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査・社会福祉調査の意義と目的について理解し、説明できるようになったか。 2.社会調査と社会福祉の歴史的関係について理解し、説明できるようになったか。 3.社会調査・社会福祉調査における倫理や個人情報保護の留意点について理解し、説明できるようになったか。 4.量的調査と質的調査の方法および調査の結果について適切に理解し、説明できるようになったか。 5.仮説設定→質問項目作成→現地調査→データ分析→分析結果の発表という調査の流れについて見通しを持てるようになったか。 6.ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解し、説明できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>小テスト 40%</p> <p>授業の態度や内容の把握など 30%</p> <p>レポート、調査方法に関する実習 30%</p>			
12. 受講生への メッセージ	統計的な知識が求められる部分もあり、苦手意識を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが。「なぜこの知識が必要なのか？」という根本的な部分からお伝えしていきたいと思っております。			
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ・本科目の概要 ・成績評価の基準 ・注意事項	事前学習	本科目のシラバスを確認しておくこと。	
		事後学習	学習記録への記入	
第2回	社会福祉調査の意義と目的 ・統計法 ・量的調査/質的調査の手法	事前学習	教科書第1章第1節～第2節の内容を確認したうえで受講すること。	
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、統計法、量的調査と質的調査を比較しながら復習しておくこと。	
第3回	社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係 ・社会福祉調査の源流 ・わが国の基幹統計調査と一般統計調査	事前学習	教科書第1章第3節～第4節の内容を確認したうえで受講すること。	
		事後学習	学習記録への記入	

			今回の授業を踏まえて、19世紀～20世紀にかけてC.ブース、ラウントリーらがイギリスにおいて実施した貧困調査について復習しておくこと。
第4回	社会福祉調査における倫理と個人情報保護 ・社会福祉士の倫理綱領 ・個人上保護法 ・インフォームド・コンセント	事前学習	教科書第2章の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、特個人情報保護法の規定と運用、会福祉調査実施者に求められる倫理的配慮についてについて復習しておくこと。
第5回	調査における考え方・論理 ・科学的調査・研究方法とは何か ・調査・研究の基本用語の説明(信頼性と妥当性・概念・独立変数/従属変数・帰無仮説/対立仮説・操作手的定義等)	事前学習	教科書第3章第1節～第2節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入
第6回	社会福祉調査の目的と対象 ・ソーシャルワークと科学的方法の接点 ・領域・対象別の研究デザイン	事前学習	教科書第3章第3節～第4節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、社会福祉調査は貧困や犯罪、スラムなど、社会的な問題を数量的・質的に明らかにすること、対象別に全数調査・標本調査、インタビュー調査・面接法・観察法といった最適な手法でデザインしていくことを復習しておくこと。
第7回	小テスト(筆記試験) / 復習講義	事前学習	これまでの講義内容(特に講義中に指摘した箇所)を復習したうえで受験すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、知識があいまいであった部分を中心に、小テストの復習をすること。
第8回	量的調査の概要 ・標本抽出(無作為抽出法・系統抽出法・有意抽出法・層化抽出法・多段階抽出法他) ・カイ二乗検定 ・クロンバックの α 係数 ・t検定	事前学習	教科書第4章第1節～第2節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、全数調査と標本調査(無作為抽出法・系統抽出法・有意抽出法・層化抽出法・多段階抽出法他)、横断調査と縦断調査(トレンド調査・集団調査・パネル調査)を比較しながら復習しておくこと。
第9回	質問紙の作成方法と留意点 ・講義の中で学習した下記イ・ロを踏まえて質問紙における質問項目の作成演習を行う。 イ) 質問項目作成の留意点として、ダブルバーレル質問・ワーディング・ステレオタイプ語、キャリーオーバー効果等に注意する。 ロ) 回答の収集方法として自形式(留め置き調査・集合調査・郵送調査・インターネット調査)、他計式(訪問面接調査・電話調査)等それぞれのメリット・デメリットを押さえる。	事前学習	教科書第4章第3節～第4節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、回収率を高める工夫とバイアスが掛からない質問項目の設定について復習しておくこと。
第10回	量的調査の集計と分析 ・講義の中で提示する例題を用いてデータの集計(度数分布票・クロス集計表)、妥当性と信頼性の確認、仮設定等を演習する。	事前学習	教科書第4章第5節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、可能な範囲でExcelや統計解析ソフト(SPSS等)を用いてデータ処理する方法と注意点を復習すること。
第11回	質的調査の概要と方法 ・グラウンデッド・セオリーとコーディング ・スケーリング・クエスチョンとシングル・システム・デザイン ・テキスト・マイニング ・質的調査の調査手法、面接法(非構造化・構造化・半構造化)、観察法(非参与観察法・参与観察法・アクションリサーチ)	事前学習	教科書第5章第1節～第3節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、調査手法、面接法(非構造化・構造化・半構造化)、観察法(非参与観察法・参与観察法・アクションリサーチ)の手法と注意点を復習すること。
第12回	質的調査における記録の方法と留意点	事前学習	教科書第5章第4節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入
第13回	質的調査のデータの分析方法	事前学習	教科書第5章第5節の内容を確認したうえで

	・事例を用いてグラウンデッド・セオリーのコーディング、KJ法のカード分類の手法、データの視覚化（ヒストグラム、箱ひげ図、散布図等）を演習する。		で受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、質的なデータを可視化する手法について復習すること。
第14回	ソーシャルワークにおける評価の意義 ・ソーシャルワークにおける測定と評価の意義 ・信頼性と妥当性の関係性 ・尺度の水準（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度）	事前学習	教科書第6章第1節～第3節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入
第15回	総括・確認テスト又はレポート	事前学習	これまでの講義内容（特に講義中に指摘した箇所）を復習したうえで受験すること。
		事後学習	全体を通して、シラバス「8.学習目標」に照らして反省及び自己点検を行う。
期末試験			